

【韓国釜山市 朝鮮通信使歴史館】

■ 調査項目

釜山朝鮮通信使歴史館について

・ 調査対応者

なし

・ 調査期日

平成28年4月3日（日）午後3時～午後5時

・ 市の概要

人口：356万人

・ 調査目的

朝鮮通信使が、江戸時代に日本へ1607年から1811年まで12回来日し、その内11回呉市下蒲刈に寄港しています。

現在、朝鮮通信使の資料館は、全国でも唯一本市にある朝鮮通信使資料館「御馳走一番館」のみである。

については、釜山市に朝鮮通信使の資料館が2011年にオープンされたということと、朝鮮通信使は、ユネスコ世界遺産の登録に向けた動きもあり、釜山市においてどのような展示やPRが行われているのかを参考にするため。

・ 調査内容

この歴史館は、2011年に、朝鮮通信使の歴史的価値と意味を伝え、釜山市を代表する歴史文化観光ブランド開発を目標に建設された。

事業費は、約2億7,000万円で、公園用地に578平方メートル、地上2階建である。

また最先端のマルチメディア技術を活用した多様な展示、充実したプログラムなどによる歴史背景を提供。日本語での説明や解説もあり、釜山との関わり方を掘り下げることができるなど、誰にでも面白く理解できるように作られた歴史館である。

また朝鮮通信使の意味を振り返るイベント等も多数行われている。

ちなみに入館料は、無料。

- ・ 呉市での展開の可能性

朝鮮通信使は、日韓友好と平和都市を維持する役割をはじめ、韓医学など朝鮮の文化や文物を日本に伝えた。

なかでも呉市下蒲刈は当時、朝鮮通信使へのおもてなしが、日本で立ち寄ったなかで一番すぐれていたと言われている。「安芸蒲刈御馳走一番」と現在でも言い伝えられている。この歴史的背景をきっかけにここへ資料館ができ、また数々の資料が寄せ集められ、全国でも有数の日韓友好施設として名を馳せている。

また毎年、朝鮮通信使行列を再現するイベントが盛大に行われるなど、ここでは日韓友好の絆を深めている。

現在、朝鮮通信使は世界記憶遺産に申請している。この動向に合わせて、本市においても、観光振興など、島嶼部への集客への周辺整備に努めることが必要であると考えます。

【韓国昌原市】

■ 調査項目

第一副市長及び昌原市議会議長へ表敬訪問
第 54 回鎮海軍港まつりの視察について

- ・ 調査対応者

第一副市長

昌原市議長

昌原市議会事務局職員、昌原市職員

- ・ 調査期日

平成 28 年 4 月 4 日（月）午前 11 時～午後 16 時

- ・ 市の概要

人 口：108 万人

- ・ 調査目的

友好姉妹都市である昌原市へ表敬訪問し、友好親善を図る。

また昌原市鎮海区は本市と同様に軍港がある。

・調査内容

昌原市は、鎮海市・昌原市・馬山市が統合し、平成22年7月に新「昌原市」となった。

本市は、平成8年に旧鎮海市にある韓国海軍練習艦隊が親善訪問のため寄港したことから、友好が深まり平成11年10月に姉妹都市となった。

その後、様々な交流を繰り返し、毎年交換学生事業やスポーツ等で交流を深めている。

また毎年呉市下蒲刈にて開催されている朝鮮通信使再現行列に、昨年は昌原市の副市長が正使役として行列に参加された。このイベントのために、はるばる韓国から来日訪問された。

こうしたことから、本市へ訪問し、日韓友好親善事業という観点から、表敬訪問し、歓迎された。

また旧鎮海市は、古くから軍港を活用したおまつりが盛大に開催されているので、参考に観覧した。

・呉市での展開の可能性

本市は、旧鎮海市からの交流を含めると16年になります

昌原市は、人口およそ100万人を越す大規模な都市です。そのような市とこうして交流の絆を深めることは大変有意義なことであると思います。

昌原市へ、本市の最大の観光資源であります海事歴史科学館「大和ミュージアム」等を紹介しました。この博物館は昌原市でも絶賛されております。ぜひこの日本の造船・科学技術の集大成を、国内外へもっと発信していきたいと考える。

【韓国釜山市】

■調査項目

釜山新港施設について

・調査対応者

釜山港広報館職員

・調査期日

平成28年4月5日（火）午前10時～午後12時

・市の概要

人 口：356万人

・調査目的

世界有数を誇る港湾施設。釜山の港湾施設の進捗状況を視察し、利用状況等を学ぶため。

・調査内容

1997年に着工した釜山新港。釜山港は2007年にはコンテナ取扱量世界第7位である。こうしたことから、世界のハブ港であるこの施設の現況また、周辺整備などを視察した。

現在は、計画の2/3は完成しており、完成は2030年を予定している。

25席が同時に着岸可能など規模の大きさに大変驚かされた。30隻が同時にコンテナ船の同時着岸が可能とのことでした。

物流倉庫や事務所等のビジネススペースが93万坪も確保でき、そのほとんどが埋まっている。その背後には、23万人が収容出来る住居スペースが建設される。釜山は、工場立地より、港湾で産業振興を行っていると思われる。

メリットは、ヨーロッパ、中国、アメリカといった海上交通ネットワーク上であることから、多彩な航路が存在することは非常に有利である。

・呉市での展開の可能性

今回視察した港湾施設は、本市の持つ港湾施設とは比べものにはならないほどの最大級の規模であった。

本市は、現在、阿賀マリノの港湾施設の売却があまり進展されていないが、今後、活用方法について、周辺整備も含めて大規模な提案を考えてみてはどうかと考える。